



平成24年2月6日

各 位

上場会社名 株式会社 ファーストエスコ
代表者 代表取締役社長 島崎 知格
(コード番号 9514)
問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 小池 久士
(TEL 03-5299-8525)

平成24年6月第2四半期業績の予想値と実績の差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成24年6月期(平成23年7月1日～平成24年6月30日)の業績予想について、平成23年8月15日付「平成23年6月期 決算短信」にて公表した予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 第2四半期業績の予測値と実績の差異及び通期業績予想の修正について

平成24年6月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,900	160	130	100	687.28
今回修正予想(B)	2,757	112	60	49	340.72
増減額(B-A)	△143	△48	△70	△51	
増減率(%)	△4.9	△30.0	△53.8	△51.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年6月期第2四半期)	3,382	112	△17	45	505.84

平成24年6月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,800	400	350	300	2,061.84
今回修正予想(B)	5,700	320	220	200	1,374.56
増減額(B-A)	△100	△80	△130	△100	
増減率(%)	△1.7	△20.0	△37.1	△33.3	
(ご参考)前期実績 (平成23年6月期)	6,452	359	130	△1,143	△10,517.28

平成24年6月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,800	30	28	192.44
今回修正予想(B)	2,004	45	46	320.87
増減額(B-A)	204	15	18	
増減率(%)	11.3	50.0	64.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年6月期第2四半期)	1,886	△46	△89	△995.93

平成24年6月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,900	130	120	824.74
今回修正予想(B)	4,000	100	100	687.28
増減額(B-A)	100	△30	△20	
増減率(%)	2.6	△23.1	△16.7	
(ご参考)前期実績 (平成23年6月期)	3,851	3	△1,835	△16,884.12

修正の理由

1. 第2四半期業績と予想値の差異の理由

[売上高]

第2四半期連結累計期間における省エネルギー支援サービス事業では、夏の電力需要が高まる期間に電力供給不足の懸念から全国的な節電の実施があり、これを受けて既存のオンサイト発電事業では自家発電設備が高稼働を続けたため売上高が進展いたしました。一方、当社グループの日田ウッドパワー発電所では、同期間において落雷や燃料搬送系に小

規模なトラブルが発生し稼働率が下がったほか、11月に実施した定期メンテナンスで当初想定した以上にボイラー内耐火炉壁や燃料搬送系設備に損傷が見られ工期が延長となったことにより売上高が減少いたしました。

これにより、第2四半期連結累計期間では、連結で当初の予想より143百万円減少し2,757百万円、個別で201百万円増加し2,004百万円となりました。

[営業利益]

第2四半期連結累計期間では、省エネルギー支援サービス事業の既存プロジェクトが順調に稼働を維持した影響で、当初見込みを上回る結果となりましたが、グリーンエナジー事業では、日田ウッドパワー発電所の稼働率が低下したことに加え補修メンテナンスコストが増加し収益が低下いたしました。

この結果、第2四半期連結累計期間では、連結で当初の予想より48百万円減少し112百万円となりました。

[当期純利益]

上述の売上高の減少及びメンテナンスコストの増加により、連結で当初の予想より51百万円減少し49百万円、個別では18百万円増加し46百万円となりました。

2. 通期業績予想の修正の理由

[売上高]

通期の見通しとしては、上半期では順調に推移した省エネルギー支援サービス事業のオンサイト自家発電が通常の稼働に戻ることと、日田ウッドパワー発電所が定格以上の稼働はできないため上半期の実績を踏まえた水準で推移する判断しております。

これにより、通期では連結が当初の予想から100百万円減少し5,700百万円、個別では100百万円増加し4,000百万円となる見込みです。

[営業利益]

省エネルギー支援サービス事業のオンサイト自家発電が上半期に高稼働で推移したことにより点検整備時期のインターバルが短縮されたことで相当する費用の発生が見込まれるため通期では当初計画を下回る見込となりました。また、グリーンエナジー事業の日田ウッドパワー発電所で上半期に乖離した状況は、通期に継承されるため全体として連結では当初の予想から80百万円減少し320百万円となる見込みです。

[当期純利益]

上述の売上高の減少及びメンテナンスコストの増加により、連結で当初の予想より100百万円減少し200百万円、個別で20百万円減少し100百万円となる見込です。

3. 今後の見通し

当社は、前期末までに事業構造の大幅な改革を実施してまいりました。今後は、当社の強みであるエネルギー使用の効率的な管理・低減を提供するためのソリューションの充実や、木質バイオマス発電所運営に係るノウハウを積極的に外販へつなげ、安定的な収益基盤の確保に注力してまいります。企業を取り巻く外部環境は、一段と厳しさを増す状況ではあるものの、再生可能なエネルギーへの転換や環境負荷の軽減に対する取組みは、着実に様々な業種において広まってきております。今後も当社グループは「省エネルギー支援サービス事業」「グリーンエナジー事業」を軸に、社会および顧客への貢献を果たすべく鋭意邁進する所存です。

以 上